

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

—

2. 学校概要

学校名 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-21-18

E-mail : webmaster@shibuya-shibuya-jh.ed.jp

Website : <http://www.shibuya-shibuya-jh.ed.jp/>

児童生徒数：男子545名 女子 688名 合計1233名

(2012年2月1日現在)

児童・生徒の年齢 12歳～18歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

地球規模の問題に対する国連システムの理解

持続発展教育（ESD）（ 国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動
 生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 その他（ ）

そのほか（ ）

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

●国際理解教育

E S Dに不可欠な地球規模の視野は、豪州、米国、英国、中国、シンガポール、ベトナムなどの海外研修におけるホームステイや学校間交流、また中国の生徒との文通など様々な国の人々との直接的な交流を通して育てています。特にシンガポールとベトナムでの研修は、業者に頼ることなく、教員がオリジナルの行程を作り、観光ではなく、社会見学や異文化理解など現地理解教育を主眼においたユニークな内容です。参加人数が限られているので、参加した生徒はプレゼンテーションを行ない、他の生徒たちと経験を共有しています。また東京横浜独逸学園とは、相互交流を始めてから7年になります。今年度は大震災の影響で、海外からの留学生が少ないのが残念ですが、フィンランドとタイからの留学生が高校1年に所属して、級友たちと一緒に勉強をしています。各留学生には自国の文化の紹介、日本との違いを発表してもらう機会を作りました。

●校外研修

学年行事に組み込まれている校外研修の際には、自調自考→行動→発表という過程を重視します。中1では歴史学習としての鎌倉、中2では地域理解学習としての信州、中3では歴史学習としての奈良、高1では平和学習としての広島と、目的地はいろいろですが、全てこのプロセスに基づき進められています。研修後、各学年でプレゼンテーションを行いました。昨年よりもE S Dに対する意識が高まっていました。

●教科学習

昔ながらの講義式授業から脱却し、積極的に発信したり、意見交換をする生徒主体の授業が増えています。国語科ではスピーチやディベートをカリキュラムに組み入れ、中学では「スピーチ・ディベート大会」を毎年実施しています。また英語科では三年間に亘る essay writing を通じて、論理的に発信する力を育成すると同時に、Reading の授業では”Confronting the Issues”というテキストを使って、人権や環境など私たちを取り巻く国際的な問題について英語で学ぶ中で、critical thinking(批評思考)の習慣を身につけるよう心掛けています。また地理と地学の教員が協力し、学際的な視点から、中学生対象の三浦半島への巡検を実施しました。

●環境への取り組み

今年は大震災のあと、節電が日本にとって大きな課題となりましたが、本校では、教員が呼びかけるのではなく、生徒会が立ち上がり、一学期後半からこの目標に向かって率先して動きました。まずは事務局から毎

日学校で使用されている電力量に関するデータを入手し、どのようにしたら、それを目標値まで下げる方法を知恵を絞ってあれこれ考えました。校内のエレベーターを一基止めることでどの程度節電できるかという社会実験をしたり、各クラスに温度計を設置して、冷房温度を規制したり、また「クールビズ」の一環として夏季休業中のポロシャツ着用を提案したり、というようにリーダーシップを発揮しました。さらには、ボランティア部がエコキャップと書き損じはがきの回収に取り組んでいます。この一年間でエコキャップは52,920個も回収することができ、日本エコキャップ協会を通じて66人分のポリオワクチンを寄付することができました。

●東日本大震災に関する活動

お見舞いカード

ボランティア部では、部員が手作りのお見舞いカードを作成し、Hands On Tokyo というボランティア団体を通じて岩手県の被災者に届けました。

●有志による活動

①翻訳ボランティア

朝日新聞社が「広島・長崎の記憶～被爆者からのメッセージ」の英語ページ (<http://www.asahi.com/hibakusha/english/>) を新設するにあたり、翻訳ボランティアを募集していたので、校内でも広島研修に参加したことがある高校生に参加を呼びかけたところ、15名が手を挙げ、難しい翻訳に取り組みました。翻訳ボランティアの中でも高校生は珍しいということで、2011年9月21日の朝日新聞全国版に取り上げられました。(別紙 朝日新聞の記事参照)

②Red Ribbon Festival

本校で3年ほど前に有志生徒が立ち上げた性感染症予防啓発運動を同年代の若者にも広げたいという思いで、10月2日に美竹の丘広場(東京都渋谷区)でRed Ribbon Festivalを渋谷高校と幕張高校の有志生徒が開催し、約350名の高校生が集まり、成功裡に終わりました。このイベントを開催するための資金には、中心メンバーが東京ボランティア・市民活動センターにこの企画の趣旨を訴えかけた結果「夢応援ファンド」という助成金をいただくことができ、またシンガポールの名門校であるRaffles Institution主催の国際高校生会議での本校生徒のプレゼンテーションが高く評価されたことでいただいた資金援助を充てました。開催場所がなかなか決まらず、渋谷区役所に何度も足を運んだり、イベントで使う機材の調達に奔走したり、当日のボランティア総勢70名の陣頭指揮を取ったりと、全て高校生主体で成し遂げた偉業に対する評価は高く、朝日新聞、毎日新聞、高校生新聞、東京ボランティアセンター機関紙に関連記事が掲載されました。(別紙 新聞記事参照)

**以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。**

■ 実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。

授業の手法については、上のアンケートでも触れましたが、各教科共「自分で調べ自分で考える」→「行動する（インタビューやアンケートの実施、パワーポイント作成、論文やレポートの作成）」→「発表する（プレゼンテーション、模造紙展示、論文集）」というプロセスを大切にしています。その活動を補佐するための教材も各教科で独自に開発しています。

■ 実施テーマに関連した研究旅行の実施。

国内、国外の研究旅行を高校 3 年生を除く全学年で毎年実施しています。中 1 は鎌倉、中 2 は会津、中 3 は奈良とオーストラリア（希望者のみですがほぼ全員の生徒が参加します）、高 1 は広島、米国・英国・ベトナム・シンガポール（希望者対象）、高 2 は中国（オプションで九州もあります）です。理科と社会科の合同企画で三浦海岸への巡研を行いました。理科は地層、社会科は大根畑をテーマにしました。

■ 他国の学校との交流や相互協力の実施。（特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。）

例年ホストスクールをして頂いているオーストラリアやシンガポールの学校の生徒たちが来日し、本校生徒と一緒に授業に参加し、学園祭では自国の紹介を発表しました。

中国研修やベトナム研修でも学校訪問をプログラムに入れ文化交流をおこないました。その他、日本にある東京横浜独逸学園との交流も行っています。

■ 国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な 10 年を記念する取組の実施。（国際母語の日、国際天文年、識字の 10 年など）
特に行いませんでした。